

# 琉球大学学術リポジトリ

## 平成24年度（2012）発達支援教育実践センター事業 報告

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター 公開日: 2013-05-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/26055">http://hdl.handle.net/20.500.12000/26055</a>

## 平成24年度（2012）発達支援教育実践センター事業報告

平成19年4月より特別支援教育がスタートし、試行錯誤の取り組みが学校現場において行われている。発達支援教育・特別支援教育に対する現場からの本センターへの期待はますます大きくなることを見据えて、平成18年10月より現場での取り組みをサポートするとともに子どもたちへの支援を行いながら学生、現職教育、支援員の実践教育、実践研究を行うトータル的な実践活動『トータル支援活動』をスタートさせた。当センターの中心事業となる「トータル支援教室」事業は第1次計画として大学を中心とした活動を活性化することから始まった。

当センターにおいて「トータル支援教室」は中心的な事業であり、今まで6年半で105回の支援のための企画案を実践してきた。地域の子どもたちが支援を受け、保護者の子育てを応援し、現職教員、保育士、支援員、関連領域の専門家のリカレント教育の機会を提供し、大学院生や学生に実践教育の場を与え、行政などと協力して地域に貢献し、実践研究を深める支援を行っていることで、「トータル支援教室」と呼んでいる。また、子どもたちとの関わりを通して「個」の特性を多面的に捉え、子どもたちたちのもつ可能性、支援教育の多様性を追求し総合的包括的に支援する上でも「トータル支援教室」と呼んでいる。現在では大学を拠点とする「トータル支援教室」では3年前から「読谷村教育委員会の特別支援教育支援員の実践力養成支援」、その翌年から「那覇市教育委員会」も実践力研修として位置づけて支援員が参加している。

センターの支援教室は7年目に入り、大学を拠点とした地域貢献および教育、研究活動を中心とする第1次段階から、「出前支援プログラムの構築」を目指す第2次段階として「トータル支援教室」、「実践事例研究会」、「相談支援」等の取り組みが定着し、4年前から第3次計画として大学から離れた離島・へき地へ地域連携型支援を目的に位置づけ「協働による子どもたちへの支援および教員、支援者の実践力養成システムの構築」、さらに第4次計画として「地域主導型の支援体制の構築」を目指してきた。特に八重山地域においては、モデル地域として10年前から継続的に実施してきた「出前型相談支援」に加え、地域支援をより充実させたトータル支

援プログラムを実施している。

昨年度から八重山の現地スタッフを大学へお招きし合同の実践研修会を実施してきた。本年は6月、2月に出前支援を行い、7月には八重山の現地スタッフを大学へお招きし、合同の実践研修会を実施した。そして八重山の地域スタッフが中心となり八重山トータル支援ネット協働会議を立ち上げるとともに、昨年10月には第4次計画として地域拠点型の「トータル支援教室in八重山」が八重山教育事務所を中心に、石垣市教育委員会、竹富町教育委員会、与那国町教育委員会との共催で実施することができた。

昨年度から国頭地域の出前支援として金武町で、当センターに参加する子どもたちと国頭地域の子どもたちが交流する1日キャンプ「トータル支援教室IN 国頭」を開催している。今後、八重山地域の取り組みから生じる支援ニーズに対して、協働の支援体制・教育体制の充実を図るとともに、八重山地域をひとつのモデルとして他の地域の支援体制を構築していきたいと考えている。

12月に開催された沖縄県特別支援教育研究会では昨年に引き続き共催となり、専任や特別支援員が県内の実践研究を報告された教諭たちとともに議論し学びあう場となった。本年度は、八重山教育事務所、教育委員会、公立学校、特別支援学級などの教育機関、付属小・中学校との連携のもと、センター事業を始め、3年間取り組んだ「21世紀おきなわ子ども教育フォーラム」の成果を報告書にまとめるとともに、八重山地域の支援を継続的に発展させて実施することができた。

2年目に入った「海プロジェクト（日本財団）」も八重山地域および国頭地域等の離島・へき地と交流を深めながら実施した。8月には『教育・研究企画事業』に参画し、「発達障がいや支援の必要な子どもたちへの通常学級の教員および支援員への実践研修ートータル支援ネット事業ー」と題して通常の学級および支援員にむけての研修会を開催することができた。その成果を3月に行われた『教育・研究企画事業』の報告会において報告した。また、その『教育・研究企画事業』の報告会では、昨年度までの3年間に実施した『21世紀おきなわ子ども教育フォー

ラム』の報告書を、本年度も継続している「トータル支援教室in八重山」事業の成果を加えて作成し配布するとともに事業報告を行った。

さらに本年度は琉球大学後援財団の「教育研究奨励事業」に参画し「支援の必要な子どもたちへの離島・へき地におけるトータル支援教室と公開支援セミナー」を実施するとともに、琉球大学生涯学習教育研究センター主催の地域連携公開講座にも共催として参画し「気になる子どもの理解・子育て・支援ー子どもの育ちと学びを支えるー」と題して八重山地域で研修会を開催した。新たに他機関の事業に参画することにより、地域からのニーズに応えることができ、当センターから発信する地域貢献事業を充実させることができた。

附属小学校においては今まで通り継続の巡回相談を実施し、付属小学校との連携を深め、一層の充実を目ざした。特に月1回の校内委員会を校長、副校長、教頭とともに実施することができるようになったことは大きな成果であった。

11月には麻生武氏（奈良教育大学教授）、別府哲氏（岐阜大学教授）を招聘し当センターの公開発達支援教育実践セミナーを開催した。その際、本年度の「トータル支援教室」の事業による実践研究の成果報告およびセンター事業の公開報告を行った。170名の多くの参加者があり、関心の高さが伺われた。

当センターの地域貢献への取り組みは県内、県外に認知され、期待の高まりとともに、より一層の地域貢献への努力が求められている。

## 発達支援教育実践センターの参画プロジェクト

### ①教育・研究企画事業（琉球大学教育学部）

A. 事業名：発達支援教育に於ける実践力養成システムの構築と離島・へき地への展開～気になる子へのトータル支援教室～

実施期間：2012年4月～2013年4月

B. 事業名：発達障がいや支援の必要な子どもたちへの通常学級の教員および支援員への実践研修ートータル支援ネット事業ー

実施期間：2012年4月～2013年3月

### ②海を活かした教育に関する実践研究（日本財団）

事業名：『海を活かした発達障害児の支援教育プログラムの開発』

実施期間：2012年4月～2013年3月

### ③地域連携公開講座（琉球大学生涯学習教育研究センター）

講座名：気になる子どもの理解・子育て・支援ー子どもの育ちと学びを支えるー

実施日：2013年3月16日

### ④教育研究奨励事業（琉球大学後援財団）

事業名：支援の必要な子どもたちへの離島・へき地におけるトータル支援教室と公開支援セミナー

実施期間：2012年4月～2013年3月

## 中期計画プロジェクト

大学中期計画のための「総合教育相談室（仮想）」事業

実施期間：2011年6月～2013年3月

## 発達支援教育実践センターの地域連携プロジェクト

：関係機関および付属小・中学校への共同研究および連携支援

以下の関係機関への支援、および連携による共同研究、共同支援を行った。教育事務所、教育委員会、学校、特別支援学級などそれぞれの関係機関の規模、形態、ニーズに合わせた連携の在り方を模索した。

### センター主催

#### ①機関名：八重山教育事務所

活動名：島嶼地域出張教育相談支援

活動内容：保護者、教員への発達相談、教育心理相談、学校訪問相談

#### ②機関名：八重山教育事務所

活動名：トータル支援教室の出前支援、実践事例研究会

活動内容：トータル支援出前教室、事例研究会による特別支援教育支援員実践力養成支援

#### ③学校名：付属小学校

活動名：定例の巡回相談（月1回）、校内委員会（月1回）

#### ④機関名：国頭教育事務所（場所：ネイチャー未来館）

活動名：トータル支援教室の出前支援

活動内容：トータル支援出前教室（日帰りキャンプ）

- ⑥機 関 名：那覇市教育委員会  
 活 動 名：特別支援教育支援員の養成支援  
 活動内容：トータル支援教室における特別支援教育支援員の実践力養成支援

### 地域支援プロジェクト計画

- 第1次計画：大学拠点型（参加型）連携支援体制の構築（近隣地域支援）  
 （現職教員、学生、支援員、高度専門職業人のための協働による実践力養成支援）  
 第2次計画：出前型連携支援体制の構築(出前離島・へき地支援、実践力養成支援)  
 第3次計画：地域との協働による実践力養成システムの構築  
 （離島・へき地との協働・連携による支援、実践力養成支援）  
 第4次計画：地域拠点型連携支援体制の構築(離島・へき地主導による実践力養成支援)

#### センター共催

- ①機 関 名：沖縄県特別支援教育研究会  
 活 動 名：沖縄県特別支援教育研究大会  
 内 容：特別支援教育に関わる記念講演及び分科会等
- ②機 関 名：琉球大学附属生涯学習教育研究センター（地域連携公開講座）  
 活動内容：公開講座  
 タイトル：気になる子どもの理解・子育て・支援  
 -子どもの育ちと学びを支える-

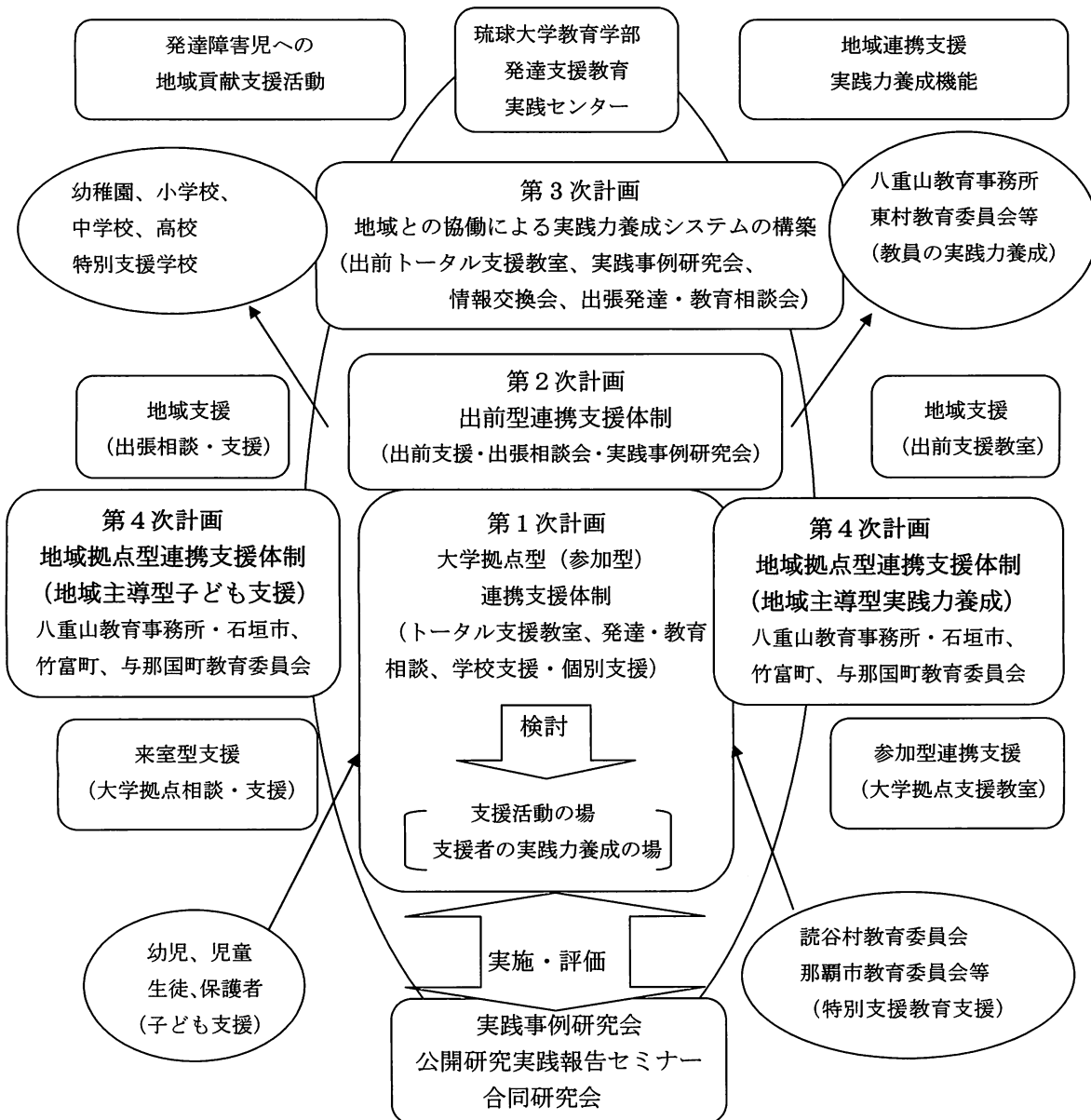


図1 地域支援プロジェクト計画

## 1. 実践教育・臨床支援活動

中核の活動である『トータル支援教室』では、大学教員、学生、院生、現職教員、支援員等が参加して発達障害のある子どもたちや気がかりな子どもたちの参加による実践教育支援、及び実践研究を目的として定期的に集団支援、個別支援、連携支援を行った。特に本年度は那覇市教育委員会との連携のもと特別支援教育に携わるヘルパーが実践力養成の目的により参加し、現職教員、学部学生、院生、特別研究員、特別支援教育支援員等の参加者により協働の多様な取り組みとなった。この『トータル支援活動』は地域支援を行うとともに学生、院生、現職教員、特別支援教育支援員等にとっては発達支援教育のための実践トレーニングの場であり活動となる。発達支援教育実践センターは発達支援および特別支援教育における地域貢献及び特別支援教育に貢献する人材育成を大切な課題として位置づけ、実践教育・臨床支援活動に取り組んでいる。

### (1) 個別実践教育・臨床活動

本センターでは、個別臨床活動支援として母親面接、教員面接、子どもへの実践教育臨床支援を行っている。その支援内容は発達支援、教育学習支援、適応支援、子育て支援の4つ柱を中心としている。毎年度開催される発達支援セミナーにおけるアンケート結果から当センターに対する期待の大きさが見られる。地域差はあるが保育や学校現場では支援体制が整ってきた。その支援体制が機能するかどうか今後の発達支援教育・特別支援教育の課題である。相談機関として地域貢献の必要性を訴える要望と同時に、学校内部の具体的な取り組みの発展に関する支援についての期待があがった。学校現場は専門性の高い信頼できる相談機関を求めており通常の学級における特別支援教育の浸透に向けて子どもたちの発達支援や学校現場の戸惑いへの支援が課題となっている。本センターは本年度プレイルームの壁やドアをリフォームし、引き戸を設置することで、安全面や防音性、バリアフリー等の機能性を高めることにより支援を充実させ、さらなる一層の地域貢献を目指している。

### (2) 集団実践教育・臨床活動

来所された子どもたちのなかで集団適応を困難とする子どもたちには『トータル支援教室』に参加してもらった。スタートして6年が過ぎた。この活動は子どもたちを支援するとともに大学と小・中学校が連携することにより発達支援・特別支援教育の支援体制のより良い方向性を求める活動である。参加

の長い子どもたちは10月には7年の歳月が流れた。本年度の紀要には、長期に支援による結果が見られるようになった子どもたちの事例報告をした。

当センターが提供している『発達支援教育実践A』、『発達支援教育実践B』の演習の受講が増え、特別支援教育を専門に学ぶ学生以外の受講生が増えた、また臨床心理学等の大学院生参加も増えて特別支援教育専修に限らず多面的な視点をもったメンバーが取り組みに参加することになった。

また、このトータル支援教室は、学生、院生、現職教員にとっては発達支援・特別支援教育のための実践力の養成をすることが可能となる活動である。当センターはこの教室に参加することにより多様な子どもたちと関わる視点を学んでもらい、その成果を、現場の発達支援・特別支援教育へ還元することを目的としている。本年度は那覇市教育委員会の支援員が実践力を養成する目的で活動に参加した。この教室での実践研究の成果はセンター主催の発達支援教育実践セミナーにおいて、平成24年11月に報告した。

### (3) 実践教育・臨床支援ケースの概要

平成24年1月から平成24年12月までの1年間の月別セッション数を表1に示した。来所相談、訪問相談を合わせて、セッション数は総計724セッションになった。昨年は507セッションであったので217セッション増加した。トータル支援プログラムの個別支援セッションが昨年51セッションから54セッションへと増加した。多くの参加している子どもたちは長期の支援を継続で行っている。

またトータル支援プログラム外の個別支援のセッション数は86セッションであり、昨年の74セッションを上回った。昨年支援を行った事例は97であったが、今年は78事例に留まった。昨年より支援を行った対象は23事例減少したが、このことは特定の子どものきめ細かく継続的に支援を行ったことと、本年度2月の八重山支援での相談数を含めていないことが影響した。2月の八重山支援を含めて年2回の相談会をカウントすれば昨年度と同等の数回となる。

一方、親面接は昨年148セッションであり、本年度は174セッションであり、26セッションの増加が見られた。昨年からの子どもの行動観察という項目を設けた。197件は子どもの行動によるアセスメントを行った。そしてその行動アセスメントにそって保護者、教員、保育士とともに考える形態の相談を行った。

保護者への面接依頼を受けて地域の保育園や学校

に重点を置いた支援を行ったことが要因である。特に離島・へき地にプロジェクトで出向いたことで不安を抱える多くの保護者と面接をすることができたことが増加の要因である。

表1 臨床活動 セッション数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
親面接(カウンセリング含む)セッション数	8	13	17	15	21	18	16	13	15	13	13	12	174
教員面接(スーパーヴィジョン含む)セッション数	8	15	14	22	10	25	12	21	14	21	12	23	197
子どもの行動観察(アセスメント)	9	8	9	8	21	21	17	8	21	30	29	16	197
子どもへの発達・教育学習・適応支援(心理療法含む)セッション数	3	6	6	8	13	7	8	6	6	9	9	5	86
実践トータル支援プログラム(個別支援)セッション数	10	0	0	5	10	5	5	0	0	4	8	7	54
実践トータル支援プログラム(集団適応支援)セッション数	2	1	0	1	2	2	2	1	0	1	2	2	16
合計	40	43	46	59	77	78	60	49	56	78	73	65	724

(4) 実践教育・臨床支援ケースの診断別内訳

表2には診断別内訳を示した。相談対象のなかで多い障がいは昨年と同様に自閉症であり約26.9%を占め、アスペルガー障害(高機能自閉症)を含めると46.2%となり全体の約半数を占めた。ダウン症候群の相談が昨年より6事例減少した。

表2 臨床活動 診断別内訳

診断名	事例数
アスペルガー障害(高機能自閉症)	15
注意欠陥多動性障害(ADHD)	7
精神遅滞(知的障害)	8
広汎性発達障害(自閉症)	21
学習障害(LD)	5
情緒障害(虐待、緘黙、不登校含む)	6
言語障害	1
ダウン症候群	2
境界知能	1
身体障害・運動性障害	3
不登校	4
その他	5
計	78

成が課題となっている。発達障がいのある子どもたちの保護者の不安は高くなり、大学の支援の必要性が大きくなっている。

本年は八重山教育事務所と連携し、石垣市に出向き相談(19.2%)を多く受けた。

表3 相談ケースの地域別内訳

相談ケースの地域別内訳	事例数
宜野湾市	27
那覇市	2
浦添市	1
西原町	3
中城村	2
うるま市	2
読谷村	1
北谷町	1
糸満市	1
豊見城市	2
南風原町	1
石垣市	14
与那国町	1
琉球大学附小	20
総計	78

(5) 実践教育・臨床支援ケースの地域別支援内訳

相談ケースの地域別内訳を以下の表3に示した。昨年と同様に宜野湾市、那覇市、浦添市、西原町、中城村などの大学周辺の市町村からの相談(約44.9%)を多く受けた。また、継続支援を行ってきた八重山地域では専門的立場で支援を行う人材の育

(6) 附属小学校支援

附属小学校に月1回巡回相談および校内委員会を実施した(表4)。20人が相談対象となり担任、コーディネーター、養護教諭、教頭、副校長、校長と情報交換および支援について話し合った。合計年間延べ55人(重複含む)教員面接、行動観察をおこなった。

表4 相談人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
教員面接(スーパーヴィジョン含む)セッション数	0	0	2	/	0	1	1	/	2	0	1	1	8
子どもの行動観察(アセスメント)	0	0	0	/	6	6	4	/	6	11	10	4	47
合計	0	0	2	/	6	7	5	/	8	11	11	5	55

## 2. 社会教育活動

平成18年10月より支援を必要とする子どもたちと特別支援教育について学ぶ意欲のある学生、院生、現職教員、さらに子どもたちの通う学校がともに関わりをもつ実践トータル支援教室をスタートさせた。専門機関としての大学の発達支援教育実践センターと公立の学校および子どもたちを支援することがこの活動のねらいである。

### (1) 実践トータル支援教室

保護者や学校から軽度発達障害児における特別な支援を必要とする子どもたちの実践支援の要望を受けて、実践トータル支援活動を行っている。以下のような目的で活動している。

- ①支援を必要とする子どもたちやその保護者への支援
  - ②支援活動を通して子どもたちやその保護者への特別支援教育について学ぶ学生や現職教員、発達支援、特別支援教育の関連専門家への実践教育支援
  - ③学校・教育行政との連携支援
  - ④支援活動を通して子どもたちについての理解の方法、支援の方法など、実践に役立つ支援に関する研究
- 支援活動は、学部学生、大学院生、保育士、小学

校、中学校、特別支援学級、特別支援学校の現職教員の参加により子どもたちへの支援として個別支援活動と集団支援活動、保護者同士の情報交換を行っている。以下のような支援課題を実施している。

#### 1) 個別支援活動

発達支援においては関係性に基づいた「生きる力を引き出す」ことを目的とし、教育学習支援においては発達の視点に基づいた「生きる力を育てる」ことを目的としている。

#### 2) 集団支援活動

適応支援においては情緒の豊かさとメンタルケアに基づいた「生きる力を支え活かす」ことを目的としている。

#### 3) 子育て支援活動

子育て支援においては子どもをもつ親の気持ちを支え、子どもたちの「生きる力を大切にする」子育て支援を目的にしている。

水曜日、月2回のペースで琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター(共通教育棟1号館4階)を会場として以下のような支援活動を行った。ここでは2012年1月から12月までの第88回から第103回までの活動を示す。また、その活動の内容を表5に、支援活動参加者数を表6に示す。

表5 集団支援活動の内容

回	活動日	活動内容
88	2012年 1月11日	・お正月企画
89	2012年 1月25日	・しっぽ取りゲーム・ジェスチャーゲーム
90	2012年 2月22日	・いろいろゲーム大会・お別れ会
91	2012年 4月25日	・じゃんけん列車・はないちもんめ
92	2012年 5月 9日	・ツヨコレ♪～世界に一つだけのカサ & カップ～
93	2012年 5月24日	・うちわパタパタぶわミントン
94	2012年 6月13日	・知恵の輪 & 切り紙
95	2012年 6月27日	・夏企画
96	2012年 7月11日	・お願い競争
97	2012年 7月25日	・なわなわなわ!?～縄で遊ぼう～
98	2012年 8月18日	【特別企画】 in 国頭 ・外で遊ぼう! ・旗作り & シーカヤック (製作の部・活動の部)
99	2012年10月24日	・紅白スポーツフェスティバル 2011
100	2012年11月14日	・デコ盛りホットケーキ
101	2012年11月28日	・自己紹介カード作り & なんでもバスケット
102	2012年12月12日	・スノーワールド
103	2012年12月26日	・クリスマスビンゴ

表6 支援活動参加者数

参加者数 活動日	子ども	親	学部学生・特別専攻科	他学部学生	院 生	特別支援教育支援員	現 教 員	近接領域の専門家	セ ン ター ス タッフ	その他	合 計
第88回 1月11日	7	7	12	0	3	1	0	0	2	0	32
第89回 1月25日	7	7	13	0	1	2	1	1	2	0	34
第90回 2月22日	7	7	8	0	0	1	1	0	2	0	26
第91回 4月25日	7	7	13	2	6	1	2	1	2	0	41
第92回 5月9日	6	6	11	2	3	1	2	0	2	0	33
第93回 5月24日	6	6	11	2	5	0	0	0	2	0	32
第94回 6月13日	5	5	12	2	4	1	0	0	2	0	31
第95回 6月27日	7	7	13	2	5	0	1	1	2	0	38
第96回 7月11日	6	6	11	2	4	0	0	0	2	0	31
第97回 7月25日	7	7	12	2	5	1	5	0	2	0	41
第98回 8月18日	9	8	4	0	2	0	5	1	3	0	32
第99回 10月24日	6	6	22	0	4	0	1	1	2	0	42
第100回 11月14日	5	5	20	0	4	0	4	0	2	0	40
第101回 11月28日	6	6	20	0	4	0	1	1	2	0	40
第102回 12月14日	7	7	19	0	4	0	1	2	2	0	42
第103回 12月26日	7	7	20	0	4	0	1	1	2	0	42

## (2) 公開セミナー（実践トータル支援プログラムの研究成果報告）

### 1) 公開セミナー

地域社会への貢献を目的にした公開セミナー（センター活動の実践研究成果の報告）を『支援を必要とする子どもたちの豊かな発達と教育の創造』というテーマのもと、会場を琉球大学医学部臨床講義棟2階大講義室において11月24日（土）に開催した。麻生武（奈良女子大学 教授）、別府哲（岐阜大学 教授）のお二人をお招きし、基調講演および研究成果の報告に対するコメントを頂いた。教員、保育士、学生、発達支援に携わる専門家、支援員、保護者など様々な領域の方々にご参加いただき実りのあるセミナーとなった。午前八重山地域の昨年度10月から開始された「トータル支援教室IN八重山」の取り組みを八重山地域の特別研究員の実践報告をし、続けて国頭地域の日帰りキャンプ「トータル支援教室IN国頭」の実践研究報告を行った。午後は

当センターで行っているトータル支援教室の集団支援を中心に報告し、国頭地域、八重山地域でのトータル支援活動についての成果報告も行った。本年度における実践報告への講師のコメントから、トータル支援教室における集団支援での6年半の取り組みの意義や成果を整理し、全国へと発信していくことの必要性を痛感するとともに今後に向けて目標を掲げることができた。

前回のセミナーに引き続き、教員、保育士、保護者のみならず、市町村教育委員会、市町村福祉部局等の参加があり教育、福祉、医療領域から多くの発達支援、特別支援教育に熱心な関係者の参加を得ることができ、センターの取り組みへの関心の高さを感じた。また、教育の領域を超えて医療や発達障害者支援センター等の福祉の多くの専門家の参加が見られたことは今後のセンターを拠点としたネットワーク作りの発展の可能性を感じさせるセミナーとなった。



公開発達支援教育実践セミナー『支援を必要とする子どもたちの豊かな発達と教育の創造』

日時：11月24日 土曜日 10時30分～17時  
会場：琉球大学医学部臨床講義棟2階 大講義室  
後援：沖縄県 沖縄県教育委員会 沖縄県発達障害者支援センター  
国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会

参加者：約170人

司会：浦崎武：琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター専任

講師：麻生武（奈良女子大学 教授）、別府哲（岐阜大学 教授）

プログラム：

第1部：支援の必要な子どもたちの理解と支援を考えるための地域の取り組み

『八重山地域の支援の必要な子どもたちへのトータル支援教室と実践からの学び（トータル支援教室in八重山）』

入嵩西清幸（八重山教育事務所 指導主事）  
運道恵理子（石垣市立登野城小学校教諭・センター特別研究員）

本間七瀬（石垣市立新川小学校・センター特別研究員）

・『国頭地域での支援の必要な子どもたちとの交流活動としての日帰りキャンプ海・自然環境を生かした子どもたちとの関わり（トータル支援教室in国頭）』

大城麻紀子（沖縄県立森川特別支援学校教諭・センター特別研究員）  
金城明美（名護市立久辺小学校教頭・センター特別研究員）  
久志峰之（那覇少年鑑別所法務教官・センター特別研究員）

コメント

麻生 武（奈良女子大学）

・11時30分～12時30分 麻生 武（奈良女子大学 教授）

『障がいのある子どもたちの「発達」を捉える視点』

・13時30分～15時20分

第2部：支援の必要な子どもたちのもつ「主体的な力」を発揮できる関わりや取り組みを考える

・『トータル支援教室の今まで：6年間』

崎濱朋子（沖縄市立比屋根小学校教頭・セン

ター特別研究員）

・『支援の必要な子どもたちをどのように理解し、関わるか—トータル支援教室のなかの子どもたちの内側からの理解と「主体的な力」の育ち—』

実践事例報告

武田喜乃恵（臨床発達心理士）

母親からの報告

支援教室に参加する子どもの母親

コメント

麻生 武（奈良女子大学）・別府 哲（岐阜大学）

・『発達障がいのある子どもたちの学校生活のなかで「主体的な力」をどのように引き出すか—トータル支援教室から学校への還元—』

瀬底正栄（那覇市立小緑小学校教諭・センター特別研究員）ほか

コメント

別府 哲（岐阜大学）・麻生 武（奈良女子大学）

・15時30分～17時 別府 哲（岐阜大学 教授）  
『発達障がいのある子どもたちの内面世界の理解と支援』

(3) 離島・へき地支援活動

地元の新聞報道（八重山毎日新聞2008年1月19日に掲載）において、発達支援教育実践センターの八重山の周辺離島への継続的な支援の必要性が取り上げられた記事により、八重山地域の支援の深刻さを再認識した。それ以降、相談支援、学校訪問に加え、大学において定例で行っている事例研究会を出張して行う新たな取り組みを続けてきた。4年前に、初めて外部講師、山上雅子氏（元京都女子大学、心理相談室ハタオリドリ）の協力を得て、専任教員浦崎武、実践事例報告会の事例提供者として大学院生の武田喜乃恵の3人で、今までの相談会に加え、新たに事例研究会を試行的に実施した。そして準備期間を経て、記念すべき第1回のトータル支援ネット事業が2009年3月5日、6日に開催された。センター長奥田実、専任浦崎武、特別研究員の瀬底正栄、崎濱朋子、武田喜乃恵および現職教員の金城明美、6人で教育学部共同研究経費によりスタッフの人数を増やして出前トータル支援教室を開催した。第3回八重山出前支援は学部プロジェクトとして21世紀おきなわ子ども教育フォーラムに参画し実施した。第1回、東村出前支援に関しては財団法人宇流麻財団の助成を得て行った。第4回、第5回八重山出前支援は第3回同様、学部プロジェクトとして21世紀おきなわ子ども教育フォーラムに参画し実施した。

第4回の記事は2010年3月8日八重山毎日新聞に、同年3月18日に琉球新報に、第5回の記事は2010年9月4日、5日に地元紙八重山毎日新聞、同年9月12日に琉球新報に掲載された。第6回～8回の八重山出前支援は2011年3月4日～5日、同年6月17日～19日、同年10月14日～16日に行った（海を活かした教育に関する実践研究・21世紀おきなわ子ども教育フォーラム）。八重山地域の教諭、支援員による現地スタッフが参加し、支援活動を行った。

本年度の離島・へき地支援は昨年度に引き続いて、日本財団による「海を活かした教育に関する実践研究事業」に『海を活かした発達障害児の支援教育プログラムの開発』をテーマとして位置付けるとともに、琉球大学後援財団の「教育研究奨励事業」においても『支援の必要な子どもたちへの離島・へき地におけるトータル支援教室と公開支援セミナー』として位置づけて支援を行った。本年度は八重山地域の特別研究員として、運道恵理子（石垣市立登野城小学校）さん、棚原こづえ（石垣市立まきら幼稚園）さん、本間七瀬（石垣市立新川小学校）さんが加わり3人の特別研究員の協力により、充実した活動ができた。

特に本年度は支援教室を通級指導教室の集団支援を行う場として位置付けたり、また高校生がボランティアとして参加したり、八重山独自の発展が見られた実りある年となった。

その本年度の支援の成果を離島・へき地における八重山支援における臨床活動のセッション数を表7に、診断別内訳を表8に、地域別内訳を表9に示す。

#### 1) 八重山地域に関わる支援活動

##### ① 八重山支援報告（発達支援教育実践セミナー） 2月

日時：2月5日（日）10時半～16時半

会場：琉球大学法文新棟215教室

- ・発達支援教育実践セミナーにおいて、「八重山地域トータル支援および実践研修ネットワークの構築」について報告を行った。

##### ② 21世紀子ども教育フォーラム最終報告会 3月

日時：3月4日（土）10時～19時

会場：琉球大学法文新棟215教室

- ・報告会において、「発達支援教育に於ける実践力養成システムの構築と離島
- ・へき地への展開～気になる子への出前トータル支援教室～」について報告を行った。

##### ③ 第3回八重山スタッフによる八重山拠点型支援教室 5月

日時：5月18日（金）18時半～20時半

会場：八重山教育事務所

『トータル支援教室（集団支援）』、『保護者会』、『事後ミーティング』

参加者：子ども：4人（幼稚園～小3）、保護者4人、支援者：6人（幼稚園教諭：1人、小学校教諭2人、特別支援学校教諭1人、特別支援教育支援員2人）、琉大スタッフ：2人、その他：1人。現地スタッフが中心となって集団支援活動を行った。

##### ④ 第9回八重山出前支援 6月（八重山教育事務所との連携）：支援プログラム 参加者総数93人

###### A. 発達支援教育相談

日時：6月15日（金）10時～15時

会場：八重山教育事務所

担当：浦崎 武（琉球大学教育学部 准教授）、  
武田 喜乃恵（センター相談員）

・一組の相談時間は50分、計7組（7人）の相談を行った。

###### B. 特別支援教育研修会

平成24年6月15日（金）15時半～17時

会場：石垣市立新川小学校

発達障がいのある子どもたちへの通常学級及び通級指導教室における支援の実際についての研修会を行った。参加者：27名

###### C. 協働会議

日時：6月15日（金）18時～19時

連携関係部局“トータル支援ネットIN八重山”のメンバーで、八重山の発達支援や特別支援教育の今後の発展のために情報交換、意見交換を行いました。

参加者：13名

###### D. トータル支援教室（集団支援教室）

日時：6月16日（土）13時半～16時

会場：八重山教育事務所

参加者：37人：子ども8人、親8人、本島支援スタッフ7人、八重山現職教員5人、見学者9人

・事前の説明会10分、集団支援60分、反省会50分で行った。

・教員や保育士と対象児各一名が組になって8組の参加で行った。

E. 実践事例検討会

日 時：6月17日(日) 10時～12時半

会 場：八重山教育事務所

参加者：9人

学校現場の事例から、子どもの支援についてみんなで色々な視点から意見を出し合い検討しました。

⑤ 八重山現地スタッフ出張研修 7月

A. 事前研修

日 時：7月25日(水) 会場：琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター

- ・八重山地域の幼稚園教諭1名、小学校教諭2名、支援員1名の計4名が実践研修に参加した。

B. トータル支援教室

日 時：7月28日(水) 会場 琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター

C. 事後研修

⑥ 第4回八重山スタッフによる八重山拠点型支援教室 8月

日 時：8月24日(金) 18時～20時半

会 場：八重山教育事務所

内 容：事前準備、集団支援、保護者会、事後ミーティング

参加者：子ども：4人(幼稚園～小3)、保護者4人、支援者：6人(幼稚園教諭：1人、小学校教諭2人、特別支援学校教諭1人、特別支援教育支援員2人)。現地スタッフで集団支援活動を行った。

⑦ 第5回八重山スタッフによる八重山拠点型支援教室 10月

日 時：10月19日(金) 18時～20時半

会 場：八重山教育事務所

内 容：事前準備、トータル支援教室、保護者会、事後ミーティング

参加者：子ども：3人(幼稚園～小3)、保護者3人、支援者：9人(幼稚園教諭：1人、小学校教諭3人、特別支援学校教諭3人、特別支援教育支援員2人)、琉大スタッフ：2人、その他：1人。現地スタッフが中心となって集団支援活動を行った。

⑧ 八重山現地スタッフ出張研修 11月

A. 実践事例研究会

日 時：11月23日(金)

会 場：琉球大学総合文系研究棟304教室

- ・県外からお二人の講師をお招きして保育実践及び学童期の支援事例の2事例の研究会を行った。
- ・八重山地域の幼稚園教諭1名、小学校教諭2名、支援員2名の計5名が実践研修に参加した。

B. 発達支援教育実践セミナー

日 時：11月24日(土) 会場：琉球大学医学部臨床講義棟2階大講義室

- ・『障がいのある子どもたちの「発達」を捉える視点』、『発達障害のある子どもたちの内面世界の理解と支援』の2つのテーマからお二人の講師の先生の講演。

⑨ 八重山支援報告(発達支援教育実践セミナー) 11月

日 時：11月24日(土) 10時半～17時

会 場：琉球大学医学部臨床講義棟2階大講義室

- ・発達支援教育実践セミナーにおいて、「支援の必要な子どもたちへのトータル支援教室と実践からの学び(トータル支援教室 I N 八重山)」について報告を行った。

⑩ 第6回八重山スタッフによる八重山拠点型支援教室 12月

日 時：12月15日(土) 18時～20時半

会 場：八重山教育事務所

内 容：事前準備、トータル支援教室、保護者会、事後ミーティング

参加者：子ども：4人(幼稚園～小3)、保護者3人、支援者：7人(幼稚園教諭：1人、小学校教諭3人、特別支援学校教諭1人、特別支援教育支援員2人)、琉大スタッフ：2人、その他：2人。現地スタッフが中心となって集団支援活動を行った。県外から講師をお招きして助言を頂いた。

⑪ 第10回八重山出前支援 2013年2月(八重山教育事務所との連携)：支援プログラム 参加者総数61人

A. 発達支援教育相談

日 時：2013年2月15日(金) 10時～17時

会 場：八重山教育事務所

担当：浦崎 武（琉球大学教育学部 准教授）、  
武田 喜乃恵（センター相談員）

援スタッフ14名 学生4名 計36名

・一組の相談時間は50分、計12組（12人）の相談を行った。

B. 協働会議 18時半～19時半

会場：八重山教育事務所

連携関係部局“トータル支援ネットIN八重山”のメンバーで、八重山の発達支援や特別支援教育の今後の発展のために情報交換、意見交換を行った。

参加者：11名

C. トータル支援教室（集団支援教室）

日時：2013年2月16日（土）13時半～15時半

会場：八重山教育事務所

参加者：26人：子ども7人、親7人、本島支援スタッフ7人、八重山現職教員4人、支援員1人

・事前の説明会10分、集団支援60分、保護者事後ふりかえり会40分、支援者事後ミーティング30分で行った。

・教員や保育士と対象児各一名が組になって7組の参加で行った。

D. 実践事例検討会

日時：2013年2月17日（日）10時～12時半

会場：教育事務所

・学校現場の事例から、子どもの支援についてみんなで色々な視点から意見を出し合い検討した。

参加者：12人

⑫ 八重山支援報告（教育・研究企画及び学部事業事業報告会）2013年3月

日時：2013年3月2日（土）13時～17時

会場：50周年記念館多目的室

・教育・研究企画及び学部事業報告会において、「発達支援に於ける実践力養成システムの構築と離島・へき地への展開～気になる子へのトータル支援教室～」について報告を行った。

2) 国頭地区に関わる支援活動

① トータル支援教室の出前支援（国頭教育事務所との連携）8月

日時：8月18日（土）

会場：金武町ネイチャーみらい館

プログラム：野外遊び、旗作り&シーカヤック  
（製作の部・活動の部）

参加者：児童生徒9名 保護者9名 団長及び支

② 国頭支援報告（発達支援教育実践セミナー）11月

日時：11月24日（土）10時半～17時

会場：琉球大学医学部臨床講義棟2階大講義室

・発達支援教育実践セミナーにおいて、「国頭地域での支援の必要な子どもたちとの交流活動としての日帰りキャンプ-海・自然環境を生かした子どもたちとの関わり（トータル支援教室in国頭）」について報告を行った。

表7 八重山臨床活動 セッション数

相談の形態	6月	2月	合計
保護者相談会(カウンセリング含む)、面接セッション数	6	11	17
教員相談会(スーパーヴィジョン含む)、面接セッション数	1	1	2
トータル支援教室(集団適応支援)セッション数(子ども数)	1(8)	1(7)	2(15)
実践事例研究会(グループスーパーヴィジョン)セッション数	2	1	3
セッション総数	10	14	24

表8 八重山臨床活動 診断別内訳

診断名	6月	2月	合計
アスペルガー障害(高機能自閉症)	1	4	5
注意欠陥多動性障害(ADHD)	1	0	1
精神遅滞(知的障害)	2	0	2
広汎性発達障害(自閉症)	6	5	11
学習障害(LD)	1	0	1
情緒障害(虐待、緘黙、不登校含む)	2	4	6
聴覚障害	0	0	0
言語障害	0	1	1
ダウン症候群	0	0	0
境界知能	1	0	1
身体障害	0	0	0
その他	1	3	4
計	15	17	32

表9 相談ケースの地域別事例内訳

相談ケースの地域別内訳	6月	2月	合計
石垣市	14	19	33
与那国町	1	0	1
総計	15	19	34

#### (4) 学校、保育園訪問支援活動

本年は那覇市、宜野湾市を中心に学校、保育園の訪問支援を行った。保育園を含め？学校・園に訪問し相談を受けた。そのうち6園は月1回定期巡回の訪問支援となった。

#### (5) 他機関および付属小・中学校との連携支援

##### ①島嶼地域出張教育相談支援 八重山教育事務所との連携支援

教育相談会、実践事例研究会、トータル支援教室の出前

##### ②特別支援教育支援員養成支援 那覇市教育委員会との連携支援

トータル支援教室における特別支援教育支援員の実践力養成支援

##### ③連携支援 附属小学校との連携支援 校内委員会の実施、子どもの適応支援

・発達に気になる子どもの適応支援、トータル支援教室への参加

### 3. 学生、院生、特別研究員への教育活動

#### (1) 実践トータル支援活動

発達障害のある子どもたちや気がかりな子どもたちとの活動を通して子どもたちとの関わり方や支援のあり方を学び、将来、発達支援教育、特別支援教育に貢献できる学生や院生を育成すること、子どもたちの支援教育に携わる研究員の実践力を高めることを目的として教育活動を行っている。実践トータル支援活動のなかで「発達支援教育実践A」、「発達支援教育実践B」を受講している学生は集団支援に参加し、グループで集団支援活動を企画し、集団支援の実践および集団のなかで個と関わる能力を養う。院生においては「軽度発達障害者支援特論」を受講すると担当する子どもの個別支援の実践力を養うことができ、さらに「特別支援教育特論B」を受講する院生は個別支援における関わりを整理し分析する能力を養う。当センターは子どもたちへの支援活動を通して実践力を備えて教育現場で活躍できる人材を育てる教育を行っている。

#### (2) 実践事例研究会

実践事例研究会において、院生、特別研究員が実践事例の報告を行い、特別支援学校教員、小学校教員、中学校教員、保育士、臨床心理士、医師、言語聴覚士、大学教員、院生、特別支援教育支援員などの参加によりコメントをもらった。院生においては

「障害児臨床心理学特論」の講義に実践事例研究会を位置づけており、発達支援教育の理解を深めるためのアフターカンファレンスを実施している。

#### 1) 実践事例検討会による院生への実践教育および特別研究員のリカレント教育

第63回、第64回、第67回は特別研究員、第59回は発達支援教育実践センターの専任教員、第59回、第61回、第66回は発達支援教育実践センターの相談員が実践事例を報告した。参加者と事例について議論を行い、多面的な意見をもらった。

##### ・第59回 実践事例研究会 (第10回特例会)

発表者：育学部附属発達支援教育実践センター  
相談員 (センター特別研究員)  
琉球大学教育学部 教員

タイトル：事例1 『学童期の子どものプレイセラピー』

事例2 『自己存在基盤の揺らぐ中学2年生の広汎性発達障がい児への自己同一性の獲得へ向けての遊戯面接の実践』

コメント：田中千穂子 (花クリニック)

古田直樹 (京都市児童福祉センター)

日時：2月4日 (2012) 14時30分～18時30分

参加者：25人

##### ・第61回 実践事例研究会

発表者：琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター 相談員

タイトル：『人との関わりに課題のある小学2年生男児とのプレイルームにおける関係性による支援』

日時：4月18日 18時30分

参加者：13名

##### ・第63回 実践事例研究会

発表者：特別支援学校 教諭 (センター特別研究員)

タイトル：『長期入院の児童の心理的支援の実践報告』

日時：6月20日 18時30分

参加者：17名

##### ・第64回 実践事例研究会

発表者：小学校 教諭 (センター特別研究員)

タイトル：『診断名の定まらない身体症状を持つ児童の理解』

日時：7月18日 18時30分

参加者：12名

- ・第66回 実践事例研究会（第11回特例会）  
発表者：事例2 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター 相談員  
タイトル：事例2 『発達障害のある男子児童の支援教室での2年半の成長を振り返って』  
コメント：麻生 武（奈良女子大学）  
別府 哲（岐阜大学）  
日時：11月23日 18時30分  
参加者：48名
- ・第67回 実践事例研究会（第12回特例会）  
発表者：那覇市立小緑小学校 教員（センター特別研究員）  
琉球大学教育学部発達支援教育実践センター 相談員  
タイトル：『トータル支援教室に通う広汎性発達障がいのある小学6年生のA君の成長を振り返って』  
タイトル：山上雅子（相談室ハタオリドリ主宰）  
日時：12月15日 10時  
参加者：5名
- 2) 公開特別支援セミナー  
第1部：支援の必要な子どもたちの理解と支援を考えるための地域の取り組み  
『八重山地域の支援の必要な子どもたちへのトータル支援教室と実践からの学び（トータル支援教室in八重山）』  
入嵩西清幸（八重山教育事務所 指導主事）  
運道恵理子（石垣市立登野城小学校教諭・センター特別研究員）  
本間七瀬（石垣市立新川小学校・センター特別研究員）
- ・『国頭地域での支援の必要な子どもたちとの交流活動としての日帰りキャンプ海・自然環境を生かした子どもたちとの関わり（トータル支援教室in国頭）』  
大城麻紀子（沖縄県立森川特別支援学校教諭・センター特別研究員）  
金城明美（名護市立久辺小学校教頭・センター特別研究員）  
久志峰之（那覇少年鑑別所法務教官・センター特別研究員）  
コメント 麻生 武（奈良女子大学）
- ・11時30分～12時30分 麻生 武（奈良女子大学教授）  
『障がいのある子どもたちの「発達」を捉える視

- 点』  
・13時30分～15時20分  
第2部：支援の必要な子どもたちのもつ「主体的な力」を発揮できる関わりや取り組みを考える  
・『トータル支援教室の今まで：6年間』  
崎濱朋子（沖縄市立比屋根小学校教頭・センター特別研究員）  
・『支援の必要な子どもたちをどのように理解し、関わるか～トータル支援教室のなかの子どもたちの内側からの理解と「主体的な力」の育ち』
- 実践事例報告  
武田喜乃恵（臨床発達心理士）
- 母親からの報告  
支援教室に参加する子どもの母親
- コメント  
麻生 武（奈良女子大学）  
・別府 哲（岐阜大学）
- ・『発達障がいのある子どもたちの学校生活のなかで「主体的な力」をどのように引き出すか～トータル支援教室から学校への還元～』  
瀬底正栄（那覇市立小緑小学校教諭・センター特別研究員）ほか
- コメント  
別府 哲（岐阜大学）  
・麻生 武（奈良女子大学）  
・15時30分～17時 別府 哲（岐阜大学 教授）  
『発達障がいのある子どもたちの内面世界の理解と支援』

### (3) センター専任教員の授業担当

センター専任教員は、当センターでの取り組みに参加し実践を学ぶことをねらいとして、本年度から学部への提供授業『発達支援教育実践A』、『発達支援教育実践B』を開設した。また、特別支援教育専攻の選択必修授業を担当している。平成24年度は以下の授業を担当した。

学部1年～4年 「発達支援教育実践A」、「発達支援教育実践B」

大学院 「特別支援教育特論B」

大学院 「障害児臨床心理学特論」

大学院 「軽度発達障害者支援特論」

大学院 「障害児教育の実践研究V」

(4) センター特別研究員およびセンター事業による研究論文

- ・2013年3月(武田喜乃恵) 広汎性発達障害児との〈能動—受動〉のやりとりにおける変容過程—トータル支援教室の集団支援から— 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第4号
- ・2013年3月(浦崎武) 発達障がい児への他者との関係性を基盤とした集団支援—T S Gにおける自閉症スペクトラム児に対する直感的心理化への支援— 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第4号
- ・2013年3月(久志峰之 大城麻紀子 金城明美 浦崎武) 沖縄の自然環境を生かした国頭地区トータル支援—主体的に動き出すための支援— 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第4号
- ・2013年3月(瀬底正栄) 複数の他者との関係性に焦点を当てた発達支援の試み～特別支援学級への通級指導を通して～ 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第4号
- ・2013年3月(金城 明美 浦崎 武) 知的に遅れない広汎性発達障害児童のトータル支援 (3) —指示に反応し怒りを表出する小5男児とのかかわり— 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第4号
- ・2013年3月(大城麻紀子 浦崎 武) 長期入院の児童の心理的支援—A児に対する10か月の実践から— 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第4号

4. 研究教育活動

(1) 実践事例研究会

2006年10月から月1回定期、水曜日に院生、現職教員、コーディネーター、特別支援教育関係者、その他の近接領域の関係者が参加して実践研究を行ってきた。この実践事例研究会は、長年の子どもの発達研究の成果が蓄積された京都発達研究会との共同研究会や講師派遣等の協力を得ながら、地域で対応に行き詰っているケース等を報告してもらい、様々な立場のメンバーと対応策を検討する支援を行っている。

第4回は特例会として麻生武(奈良女子大学)氏、山上雅子(元京都女子大学、心理相談室ハタオリドリ)氏がコメンターとして参加された。また、第11回には浜田寿美男(奈良女子大学)氏、麻生武氏、

山上雅子氏の他、京都の発達研究会との共同研究会が開かれた。第22回は京都発達研究会から山上雅子氏をお招きして開催された。また、第24回の特例事例研究会では発達支援教育実践センターの研究会メンバーが奈良女子大学に出向き、第2回沖縄・京都発達研究会合同研究会が開かれた。関西地区以外にも東北地区、関東地区、中部地区からも参加者が来られた。第47回(第8回特例会)事例研究会では滝川一廣氏(学習院大学)が、第48回(第9回特例会)事例研究会では滝川一廣氏(学習院大学)と浜田寿美男氏(奈良女子大学名誉教授)をお招きして開催した。昨年度は、第59回(第10回特例会)事例研究会で、田中千穂子氏(花クリニック)と古田直樹氏(京都市児童福祉センター)をお招きして開催した。

本年度は第66回(第11回特例会)事例研究会で、麻生武氏(奈良女子大学)、別府哲氏(岐阜大学)を、さらに翌月の第67回(第12回特例会)で、山上雅子(相談室ハタオリドリ主宰)をお招きし、実りある実践研究会となった。

・第58回 実践事例研究会

発表者：発達障害者当事者会 代表  
 タイトル：『発達障害と青年期・成人期』  
 日時：1月18日 18時30分  
 参加者：11名

・第59回 実践事例研究会(第10回特例会)

発表者：事例1 琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター相談員  
 事例2 琉球大学教育学部 教員  
 タイトル：事例1 『学童期の子どものプレイセラピー』

事例2 『自己存在基盤の揺らぐ中学2年生の広汎性発達障がい児への自己同一性の獲得へ向けての遊戯面接の実践』

コメント：田中千穂子(花クリニック)  
 古田直樹(京都市児童福祉センター)

日時：2月4日 14時30分  
 参加者：25名

・第60回 実践事例研究会

発表者：しのめ保育園 保育士  
 タイトル：『恐竜になりきる園児の保育園での育ちと小学校への入学後の支援に向けて』

日時：3月21日 18時30分

- 参加者：23名
- ・第61回 実践事例研究会  
発表者：琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター 相談員  
タイトル：『人との関わりに課題のある小学2年生男児とのプレイルームにおける関係性による支援』  
日時：4月18日 18時30分  
参加者：13名
  - ・第62回 実践事例研究会  
発表者：ゆうわ保育園 保育士  
タイトル：『自閉的ファンタジーの強い男児の卒園までの育ちと保護者支援～小学校への引き継ぎと今後の支援に向けて～』  
日時：5月16日 18時30分  
参加者：26名
  - ・第63回 実践事例研究会  
発表者：特別支援学校 教諭（センター特別研究員）  
タイトル：『長期入院の児童の心理的支援の実践報告』  
日時：6月20日 18時30分  
参加者：17名
  - ・第64回 実践事例研究会  
発表者：小学校 教諭（センター特別研究員）  
タイトル：『診断名の定まらない身体症状を持つ児童の理解』  
日時：7月18日 18時30分  
参加者：12名
  - ・第65回 実践事例研究会  
発表者：あいのもり保育園 保育士  
タイトル：『多動傾向のある広汎性発達障害の男児との関わり』  
日時：9月19日 18時30分  
参加者：17名
  - ・第66回 実践事例研究会（第11回特例会）  
発表者：事例1 あいのもり保育園 保育士  
事例2 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター 相談員  
タイトル：事例1 『広汎性発達障害と診断された幼児の保育園での育ち』  
事例2 『発達障害のある男子児童の支援教室での2年半の成長を振り返って』  
コメント：麻生 武（奈良女子大学）  
別府 哲（岐阜大学）

- 日時：11月23日 16時30分
- 参加者：48名
- ・第67回 実践事例研究会（第12回特例会）  
発表者：那覇市立小禄小学校 教員  
琉球大学教育学部発達支援教育実践センター 相談員  
タイトル：『トータル支援教室に通う広汎性発達障がいのある小学6年生のA君の成長を振り返って』  
タイトル：山上雅子（相談室ハタオリドリ主宰）  
日時：12月15日 10時  
参加者：5名

## (2) 実践研究公開報告

11月24日のセミナーにおいて実践トータル支援活動の成果およびその取り組みの成果を学校に還元し、当センターで実施した事業の実践研究の報告、八重山地域、国頭地域等でのトータル支援活動の報告を行い、麻生武氏（奈良女子大学）、別府哲氏（岐阜大学）から貴重なコメントを頂いた。

## (3) 実践研究論文の作成

11月24日に実践研究の公开发表を行った事例を中心に実践トータル支援活動の実践の成果、実践事例研究会の検討事例に関する実践研究の成果を以下の論文にまとめた。

### 1) トータル支援教室報告：研究論文

- ・2013年3月（武田喜乃恵）広汎性発達障害児との＜能動－受動＞のやりとりにおける変容過程－トータル支援教室の集団支援から－ 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第4号
- ・2013年3月（浦崎武）発達障がい児への他者との関係性を基盤とした集団支援－T S Gにおける自閉症スペクトラム児に対する直感的心理化への支援－ 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第4号
- ・2013年3月（久志峰之 大城麻紀子 金城明美 浦崎武）沖縄の自然環境を生かした国頭地区トータル支援－主体的に動き出すための支援－ 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第4号
- ・2013年3月（瀬底正栄）複数の他者との関係性に焦点を当てた発達支援の試み－特別支援学級への通級指導を通して－ 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第4号



- ・2013年3月(金城 明美 浦崎 武)知的に遅れのない広汎性発達障害児童のトータル支援(3)ー指示に反応し怒りを表出する小5男児とのかかわりー 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第4号
  - ・2013年3月(大城麻紀子 浦崎 武)長期入院の児童の心理的支援ーA児に対する10か月の実践からー 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第4号
- 3) 公開セミナー報告: 研究論文
- ・2013年3月(武田喜乃恵)広汎性発達障害児との<能動ー受動>のやりとりにおける変容過程ートータル支援教室の集団支援からー 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第4号
  - ・2013年3月(久志峰之 大城麻紀子 金城明美 浦崎武)沖縄の自然環境を生かした国頭地区トータル支援ー主体的に動き出すための支援ー 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第4号
- 4) 紀要: 発達支援教育実践センター専任研究論文
- ・2012年10月(浦崎武)保育所や幼稚園と小学校との連携と「遊び」の関連性ー「気になる子どもたち」への支援と教育に触れながらー 発達132 ミネルヴァ書房
  - ・2013年3月(浦崎武)発達障がい児への他者との関係性を基盤とした集団支援ーTSGにおける自閉症スペクトラム児に対する直感的心理化への支援ー 琉球大学教育学部発達支援教育実践センター紀要 第4号

#### (4) 発達研究会

毎月1回、大学院生、現職教員、発達支援に携わる専門家を対象に発達研究会を開いている。実践教育を行う上で基礎となる発達理論を学ぶ会を開いている。

#### (5) 定期刊行物の発行

定期刊行物として「発達支援教育実践センター紀要」を発行している。2013年3月には第4号を発行した。

#### (6) 研究資料の提供

- ・トータル支援教室の活動に関することや支援を受けている子どもたちとの関わりについて報告し、実践支援セミナーにおいて資料として配布した。

#### (7) 助成金における研究

##### 1) 教育・研究企画事業

- ①事業名: 発達支援教育に於ける実践力養成システムの構築と離島・へき地への展開～気になる子へのトータル支援教室～  
実施期間: 2012年4月～2013年4月
  - ②事業名: 発達障がいや支援の必要な子どもたちへの通常学級の教員および支援員への実践研修～トータル支援ネット事業～  
実施期間: 2012年4月～2013年3月
- ##### 2) 海を活かした教育に関する実践研究(日本財団)
- 事業名: 『海を活かした発達障害児の支援教育プログラムの開発』  
実施期間: 2012年4月～2013年3月
- ##### 3) 後援財団教育研究奨励事業(琉球大学後援財団)
- 事業名: 支援の必要な子どもたちへの離島・へき地におけるトータル支援教室と公開支援セミナー  
実施期間: 2012年4月～2013年3月

#### 5. その他の活動

##### (1) その他の社会的活動

- センター専任 浦崎武
- ・宜野湾市障害児等審査委員会 委員  
開催日: 1月10日、12月20日
- ・東京都成人発達障害者当事者会開催 運営協力  
開催日: 1月19日  
会場: 琉球大学50周年記念館  
タイトル: 『コミュニケーショングループ イイトコサガシ』
- ・日本教育公務員弘済会 記念公演 講師  
開催日: 1月21日  
会場: 共済会館 八汐荘  
タイトル: 『発達障がいのある子どもたちの理解と対応ー誰かと何かを共有する体験を積むことー』
- ・宜野湾市障がい児保育実践報告会 講師  
開催日: 2月17日
- ・島尻地区特別支援教育総合推進事業運営委員会  
期間: 平成24年4月1日～平成25年3月31日
- ・島尻地区特別支援教育専門家チーム委員会  
期間: 平成24年4月1日～平成25年3月31日
- ・八重山地区特別支援教育総合推進事業運営委員会  
期間: 平成24年4月1日～平成25年3月31日
- ・八重山地区特別支援教育専門家チーム委員会

- 期 間：平成24年4月1日～平成25年3月31日
- ・沖縄県労働局 発達障害者専門指導監
  - 期 間：4月13日～平成25年3月31日
- ・沖縄県発達障害者支援センター連絡協議会
  - 期 間：3月16日～平成25年3月31日
  - 開 催 日：3月16日
- ・宜野湾市保育園巡回相談員
  - 依頼期間：4月1日～平成25年3月31日
- ・那覇市教育委員会 学習障害児等専門家チーム巡回
  - 依頼時期：4月1日～平成25年3月31日
  - 場 所：3月15日、16日（久茂地小学校）
- ・沖縄県立大平特別支援学校評議員
  - 期 間：平成24年4月1日～25年3月31日
- ・沖縄県特別支援教育推進事業運営協議会
  - 期 間：平成24年4月1日～平成25年3月31日
- ・那覇市就学指導委員会
  - 期 間：平成24年4月1日～平成25年3月31日
- ・中城村就学指導委員会
  - 期 間：平成24年4月1日～平成25年3月31日
- ・県教育委員会 カウンセリング実践講座（特別支援教育論）講師
  - 開 催 日：7月13日、20日、23日、24日
  - 会 場：県立総合教育センター
- ・免許法認定講習 講師
  - 日 時：8月2日
  - 会 場：県立総合福祉センター
- ・県立特別支援学校10年経験者研修 講師
  - 日 時：7月26日
  - 会 場：県立総合教育センター
- ・県立高等学校初任者研修 講師
  - 日 時：10月25日
  - 会 場：県立総合教育センター
- ・宮古島市小・中学校生徒指導主任研修会
  - 日 時：11月13日
  - 会 場：宮古島市中央公民館
- ・沖縄特別支援教育研究会自閉症部門 助言
  - 日 時：12月1日
  - 会 場：名護特別支援学校
- ・トータル支援教室集団活動の企画・運営
  - 実 施 日：2012年4月～2013年1月（計15回）
  - 場 所：発達支援教育実践センター
- ・八重山支援スタッフ
  - 実 施 日：5月、6月、10月、11月、12月
- ・国頭支援スタッフ
  - 実 施 日：2012年8月18日
  - 場 所：ネイチャーみらい館
- ・研修会講師
  - 「通常学級の先生のための特別支援教育」
  - 実 施 日：2012年8月21日
  - 場 所：琉球大学共通教育棟2号館
- ・付属小巡回相談、連絡調整
  - 実 施 日：2012年4月～2013年3月（月1回）
  - 場 所：附属小学校
- ・付属中教育相談委員会への参加
  - 実 施 日：2012年4月～2013年3月（毎週月曜日）
  - 場 所：附属中学校

## 6. センター相談員の活動

- ・センター個別相談（総数102件）
  - 子ども面接：65
  - 親 面 接：30
  - 教 員：7